

13 番 石 田

受付番号2番、議席番号13番、石田照子でございます。

私は、「異業種交流によるまちづくりを」ということで、一般質問いたします。

「魅力的で住みたい」そんなまちづくりを握る鍵は、いかに新しい知恵を出せるかではないでしょうか。行政だけの知恵では視野は狭くなりがちです。そこで民間企業や学生など、ふだん行政とはとは関わりのない様々な方とまちづくりについて議論できる場を設けることで、思いもよらぬ発見や斬新的な提案に巡り会うことができるはずです。

また、専門的知識や国とのパイプ役になれるような人材の登用も、町の発展には重要な位置づけとなることと思います。

商店街の活性化、観光業の発展、人口減少対策、高齢化に伴う福祉サービスの充実など問題は山積しています。

問題解消の手段として、異業種の知恵と知恵を融合させることで、新しい風が吹き、発展的な化学変化が起きることを期待し、以下質問いたします。

1つ目、町とゆかりのある自治体や団体、または個人とさらなる交流を図ったらどうか。

2点目、企業や学生など、異なる分野の英知を集め、住んでいてよかったと思えるようなまちづくりに生かしたらどうか。

3点目、国とのパイプ役となれる人材を登用したらどうか。

以上でございます。

議 長

答弁願います。

町長。

町 長

それでは、石田照子職員から「異業種交流によるまちづくりを」についての御質問をいただきました。

初めに、1点目の御質問の「町とゆかりのある自治体や団体、または個人とさらなる交流を図ったらどうか。」についてであります。本町では、複数の自治体と交流事業を進めていますが、ゆかりのある自治体としては、同じ「山北町」という町名がきっかけとなった新潟県山北町との産業交流が上げられます。

平成20年4月には山北町は市町村合併により、村上市となりましたが、合

併後も村上市山北地区とは産業まつりを通じて、交流を続けてまいりました。

平成30年12月、私は村上市を訪問し、今後の交流事業については、これまでの産業交流をベースにしつつも、山北地区に限定することなく、村上市全体との交流事業に発展したい旨を村上市長に伝え、市長からも御理解をいただきました。

今後においては、村上市と産業交流以外にどのような交流が可能か、村上市の意向や、町関係諸団体等の意見も伺いながら、検討していきたいと考えております。

また、山北町から全国に派生した河村氏の累代を供養する河村城まつりには、河村氏の子孫として政界で活躍している河村建夫衆議院議員や河村たかし名古屋市長にも御参加いただいております。

私は、本町にゆかりのある、こうした方々との交流についても、大切にしていきたいと考えており、河村議員には、本町と国とのパイプ役としての御支援をお願いしておりますし、河村市長については、私と同じ自治体の首長として、まちづくりの課題などについて情報交換を行うなどして、町行政に反映していきたいと考えております。

現在、コロナ禍という状況の中、こうした交流事業の実施は非常に困難ではありますが、コロナ禍が終息した際には、交流事業を充実することで、町のさらなる活性化を図ってまいります。

次に、2点目の御質問の「企業や学生など、異なる分野の英知を集め、住んでいてよかったと思えるようなまちづくりに生かしたらどうか。」についてであります。町では、昨年度、外部委員で構成される「山北町まち・ひと・しごと創生推進会議」で審議を重ね、「山北町第2期人口ビジョン・総合戦略」を策定いたしました。これまで、この会議体の委員については、町内諸団体の代表が中心となっていましたが、昨年度から新たに町内企業、交通事業者、学校関係者の方々にも参画していただき、それぞれの立場で御意見をいただきました。

また、山北高等学校では、本町との協定に基づき、令和元年度から文部科学省事業である「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」を進めております。この事業では、生徒が本町においてフィールドワークを行い、町

の課題解決に向けた探求的な学びを実践するもので、最終的には、生徒から町に対して、町の課題解決に向けた政策提案がなされます。

今後、町行政を進めるに当たっては、町内企業や学生など、新たな視点による意見・要望も取り入れ、町の課題解決に努めることも必要と考えますので、こうした機会を積極的に活用し、まちづくりを進めてまいります。

次に、3点目の御質問の「国とのパイプ役となれる人材を登用したらどうか。」についてであります。令和2年10月、町では、本町の重要な行政課題となっている防災行政の強化を図るため、退職自衛官を防災官として採用いたしました。これは、自衛隊在職中に培った防災・危機管理等の専門的な知識や能力、経験などを生かし、本町の防災・減災の取組の充実を図るとともに、国機関である自衛隊とのパイプ役としての役割も期待してのことです。

国とのパイプ役なる職員の必要性については、その自治体がどのような課題を抱え、それを解決するために国がどのような関わりを持つのか、また、そうした職員を採用することで本当に事務が円滑に進み、自治体の課題が解決につながるかなど、様々な観点から総合的に判断した上で採用すべきであると考えておりますので、今後、さらなる取組を進めてまいります。

議 長 議席番号13番、石田照子議員。

13 番 石 田 産業交流で山北町のほうが回答の中で紹介されておりましたけれども、今、この人口減少というのは、もう当町だけの問題ではなくて、日本全体であらゆる自治体がいろいろな対策を取っておりますので、この人口を増やすということは、そんなに簡単な問題ではないと思います。

そこで、そのような他町と交流をすることで、交流人口や関係人口をつくっていかうというようなことを念頭に入れているとは思いますが、これについては、今後どのような考え方でいらっしゃるのでしょうか。

議 長 町長。

町 長 交流人口・関係人口については、やはり町の人口を増やしていくということは、なかなか今の状態では難しいというふうに思っておりますので、その中で、やはり関係人口を増やしていく。今現在、SUPなどを通じたり、そういった中で、関係する人も増やしていきたいというふうに思いますし、ま

た、山北町、様々な資源がございますから、そういったものを含めながら、山北町に何度でも来ていただけるような、そんな人を関係人口を増やしていきたいというふうに考えております。

町 長 石田照子議員。

13 番 石 田 山北に何度でも足を運びたい、そんな関係人口をつくっていくことは、非常に重要だと思います。

そして、回答の中でも、河村城主が子孫についての御案内がございましたけれども、当町には、そのような関係される方というのが、河村城主のみならず、いろいろな戦時中に疎開された方ですとか、一般の方で事業に成功された方とか、様々な著名な方がいらっしゃいます。そのような方々を山北町とゆかりのある方として交流を図ったらどうかと思うんですが、いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、山北町出身でいろいろなところで活躍している方がたくさんおられますので、そういう方々をぜひ山北町にそういった協力をしていただいて、交流を深めるというのは、大変いいことだというふうに思っておりますので、それらについては、当然どういう切り口で行くかということもありますし、俗によくほかでは何とか大使とかというような形でやられる方もありますけども、そういった方法でなくてもできるのではないかとこのように思っておりますので、それらを皆さんの提案も聞きながら進めてまいりたいというふうに思っております。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 そのどのような切り口でというのは、非常に難しいと思うんですけども、2年ほど前ですかね、群馬県の中之条町へ視察に行ったんです。そうしましたら、その中之条町では、町にゆかりのある方とか、あるいは団体、企業に積極的に訪問をされているそうなんです。その結果、それが、ふるさと納税につながっているというようなお話を伺いました。

そのような交流をすることによって、どのような副産物が生まれるかは、未知数ではございますけれども、そういった方にコンタクトを取ることによって、町と、山北町とは関係があるんだなというようなこと印象づけるとい

うのも、一つの行政としての戦略ではないかと思うんですけども、いかがでしょう。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるように、新しく山北町のゆかりのある方に積極的に営業するということは、非常に大事なことだというふうに思っていますので、特にふるさと納税については、今現在、町を支える税収の一部にもなっているわけですから、ぜひとも、これは今現在、もう既にふるさと納税でやっていらっしゃる方に、中でも例えば何年にもわたって支援してくださる方については、やはり何と言うんですか、常連さんみたいな形で何かできないかということで、今企画しておりますので、そういったことも含めながら、さらに拡大してまいりたいというふうに思っています。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 ふるさと納税にも、こだわる必要はないと思うんですけども、山北町には、いろんな著名な方がいらっしゃいます。あえて言うまでもありませんけれども、御存じない方がいらっしゃるといけませんので、挙げさせていただきますが、山北高校の校歌を作詞され、山中あるいは山高のバッジをデザインされた露谷虹児さん。戦時中に疎開されて、10年ほど山北に住んでおられました。

また、ひばり児童合唱団の前身である皆川キョウさんも疎開をされていて、1回目のコンサート、2回目のコンサートは川村小学校の講堂でされました。そのときにゲストで招かれた米山正夫さんは、川村小学校の校歌の作曲をされておられます。

また、山崎製パンの創業者の妹さんの嫁ぎ先が、山北の山崎要太郎さんということで、また二代目小菅丹治さん、伊勢丹の社長ですね。岸出身の高橋喜平さん。先ほど回答の中でも御案内がありましたように、河村城主の子孫には、名古屋市長の河村たかしさん、あるいは衆議院議員の河村建夫さん、また若いところでは、山高出身の物まねタレントの青木隆治さんなどもおられます。このコロナが終息した際には、交流充実するというような回答もいただいておりますけれども、このアフターコロナの折には、ひばり児童合唱団、今、もう既に皆川キョウさん、御健在ではありませんけれども、おいの皆

川おさむさん、「黒ネコのタンゴ」御存じだと思いますけれども、その方が代表を務めておられますので、生涯学習の一環として、コンサートにお招きするというような方法、ぜひ、アフターコロナのときには、そのようなことも交流の一つとして実施していただけたらどうかなと思うんですが、いかがでしょう。

議 長 町長。

町 長 現実的にそういったことができるような皆川先生とか、そういったようなところはいいというふうに思いますけれども、それ以外の方もたくさんいらっしゃると思いますので、まあそういったような中では、ぜひ山北町にゆかりのある方をやっていきたいと。

特に、河村たかしさんなんかは一回公演をやっていただきましたし、そういった意味では、可能性があって、また、そういうようなことが非常に町民の皆さんから支持を得られるようなことであれば、積極的にやっていきたいというふうに思っております。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 次に移ります。

ということで、先ほどの山北町の御案内もございましたけれども、山北町という地名を使っているところは結構あるんですね。御紹介させていただきますと、秋田県秋田市の手形山北町、愛知県小牧市の山北町、岐阜県岐阜市の鷺山北町など結構ありますので、産業交流と、あるいは何とか大使みたいな大々的な交流はしなくても、ぜひ首長同士で交流を図っていただきたいと思うんですがいかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 そういう機会があれば、積極的にしたいというふうには思いますけれども、今現在、町については、全国町村会がございますので、その中で、様々な町と村と交流をしております。やはり、それが市となると、例えば、なかなかそういういろんな関係がないと、なかなか村上市さんのような交流は、なかなか実現しないというふうに思いますけれども、しかし町村であれば、非常に仲よくさせていただいておりますので、今現在、全国にしても、あるいは関東にしても30以上の自治体の皆さんと首長と交流させていただいております。

すんで、そういった意味では、今後ともそういった関係を維持しながら、さらに関係人口につながるようなこともやっていければいいんじゃないかなというふうに思っております。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 前向きな回答をいただきましたけれども、山北さんという名字も、結構、愛知県内一番全国で多いんだそうです。いろいろこじつけて、関係人口をつくっていただきたいと思うんですけれども、全国の山北さんが集まって、ぜひ町長が主導して、全国の山北さんグループみたいな。山北さん大会みたいな、そんなものをぜひつくって、積極的に活動していただきたいと思いますが、いかがでしょう。

議 長 町長。

町 長 口で言うは易しく、実際は相当難しいことだというふうに思っておりますんで、そういったいろいろなところで、そういうようなことをやられる首長さんも数多くいらっしゃいますけれども、私の場合には、それも一つの方法だという中で、選択肢のほうには入れさせていただきますけども、ほかの方法もあるんじゃないかというようなことで、様々な視点の中から、やはり検討していかなければいけないなというふうにと思っております。

ですから、どこの町も、特に人口が1万とか、2万足らずのところは、我が町と同じような悩みを非常に抱えております。そういう中でお互いの悩みを相乗効果でこう解決できるような方法があれば、増やしていくのも大事だし、逆に今付き合っているところと、さらに交流を深めるというのも大事だというふうに思っていますんで、その二方向について、これからも頑張っていきたいというふうに思っています。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 ぜひ町長の手腕で強引に関係人口、関係をつくと、いろいろなところと交流を図っていただきたいと思います。

それでは、2点目に移ります。

2点目の「企業や学生など、異なる分野の英知を集め、住んでよかったと思えるようなまちづくりに生かしたらどうか。」ということで、新聞記事にも産官学あるいは産官金が連携しているというような、このような報道がご

ございました。

これからのまちづくりは、様々な主体が連携して、町単独ではなくて様々な主体が共同して進めることが望まれているのではないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 おっしゃるようにやはり視点が違う、企業さんとか学生さんについても非常に、今の特にコロナになってから、非常に何ていうんですか、やはり生き残りをかけて、非常な知恵を出しているというふうに考えております。

そういう中では、非常に、今山北町は注目に値すると。コロナもゼロで、感染者がゼロでございますし、そういった意味では、また広大な山を抱えて、そして、また湖とかそういったものもあるということで、非常に期待はしております。

実際にいろいろな企業の方も山北町に実際に訪れて、ワーケーションの提案であるとか、様々なこともしていただいておりますけれども、その中でも学生については山北高校、非常に熱心に校長先生がやっておりますし、また、大学関係でも駒澤大学であるとか、私の拓殖大学とか、様々なところで、いろいろな学生等も山北町に訪れてみたいというようなことがございます。そういった意味では、ちょうどコロナで今までのビジネスモデルというんですか、こういったような観光戦略とか、そういったものが新しくならなければいけないというような時期に差しかかっておりますので、そういった意味では、特にこの企業・学生については、期待して、いろいろなアイデアをいただければというふうに思っております。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 町長もいろいろお考えになっておられるようですけれども、この新聞記事によりますと川崎市は産官金が連携して、空き家対策に取り組んでいると。

また、もう一つの記事は、東海大産官学が一緒になった新法人をつくって、リモートワークを推進するため、多機能のサテライトオフィスの開設や情報インフラの再整備を目指す。さらには自動車運転技術の研究を進め、鉄道路線の空白地に、次世代の交通システムの導入を模索しているんだそうです。当町でも、ぜひ参考にできるのではないかなと思いますので、ぜひ時代に乗

り遅れないように、この辺もしっかり検討していただきたいと思っておりますけれども。

先ほど、町長の御発言の中で、山北高校との交流についてお話がございましたけれども、学校教育改革推進事業、町と高校あるいは企業さんとか一緒に始めていると思っておりますけれども、これについて、町はどのような関わりを持っていらっしゃるのでしょうか。

議 長

企画政策課長。

企画政策課長

文科省事業の關係の御質問かと思うんですけれども、基本的には、この文科省事業の指定を受ける前に、町と山北高等学校とで協定を結んでおります。その協定に基づいて、この事業を進めているわけでございますけれども、この事業につきましては、あくまで基本的には山北高等学校のほうで授業の一環として、この事業を推進するというような形になってございまして、町のほうといたしましては、山北高等学校が取り組むこの事業について、あくまで協力するというスタンスで支援のほうをさせていただいております。

この事業につきましては、地域の課題解決や地域社会の活性化に関することですか、あるいは地域人材育成に関すること、こういったことが協定の中で明記されてございまして、それに基づいて進めているものでございます。

具体的に、じゃあ町のほうでどんなことで支援をしているかということでございますけれども、役場の内部に私ども企画政策課と総務防災課それと福祉課、保健健康課、商工観光課、学校教育課、それと生涯学習課、こちらのほうに、この山高が進める事業について、町の連絡、パイプ役ですかね、そういうパイプ役的な職員を配置して、学校からニーズがあった際に、それぞれの分野ごとにこのパイプ役の職員が山北高等学校と連携をして、協力をしているというような状況になってございまして、例えば昨年度ですけれども、昨年度につきましては1年目の事業でございますので、まずは山北町の概要について知りたいというような御要望が山北高校からございましたので、私どもの課のほうで、町の概要の説明を生涯学習センターのほうで行うようなことをやらせていただきました。

それと、あと昨年度の1月に防災關係の取組を町のほうからは説明を聞きたいというようなお話がございましたので、総務防災課のほうで、町の防災

課題について全般の説明をさせていただいたというような状況でございます。様々な形でいろいろ支援をしてるところでございますけれども、例えば今年度につきましては、森林セラピーの関係、こういったものも学びたいということで、フィールドワークの中で、森林セラピーの関係ですとか、あるいは、町の農業体験をやりたいということで、これは地域の方にも御協力をいただいたわけなんですけれども、農業の関係ですとか、そういったものもフィールドワークの中で取り組んでおまして、山高からいろいろ御要望ございますので、できるだけ協力するようなスタンスで支援をしてるというような状況でございます。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 この事業は、来年一旦終了いたしますけれども、今お話を伺っていると、学校のほうから要望があったらば、そのニーズにお答えするというような、割と消極的な対応をされてきたのかなと思うんですけれども、これが終了した後、この事業については、どのような方向性を示すのかお考えがあればお聞きいたします。

議 長 企画政策課長。

企 画 政 策 課 長 文科省の補助事業としては、来年度で終了というような形になりますけれども、当初から山北高校のほうでは文科省のその補助が終わっても、継続してこの事業については続けていきたいというようなお話がございましたので、町のほうもそれに基づいて支援をしていくというような考えでございます。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 今後も続けていただけるという御回答をいただいて、安心いたしましたけれども、せっかくこのように高校とコラボができたわけですから、今度は近隣の企業、あるいは地域の皆さん、あるいはこれに大学なども加えて、さらにバージョンアップしたその組織として、まちづくりに生かしたらどうかと思うんですけれども、いかがでしょう。

議 長 教育長。

教 育 長 山北高校のこの文科省の事業でございますけれども、その前に県からコミュニティスクールということで、運営協議会という組織がございまして、その中にはPTAの方、それから私、教育長、それから総務防災課、関係課のあ

るいは山高の校長とか、川村小学校校長、あるいは大学の先生、そういった中で組織しまして、コミュニティスクールの運営協議会というのをやっています。

それとプラス、この文科省を受けて、運営指導委員会というのがございます。3名その指導員がございまして、そのうちの一人が私です。あと二人が大学の先生と、もう一人が企業の方で3名で運営指導委員会ということで、県教委がこれ主催で会議を開催して、今までの山北高校の取組ですとか、今後の方向だとか、そういった中で協議をして、この3名の意見を吸い上げながら今進めているというような状況でございますので、決して山北町として消極的ではなくて、どちらかと言えば、一生懸命この山北高校を盛り立てようということに取り組んでいるということで、窓口が私からすると、私が中心的な窓口で、事務的なものは総務防災課が担当してございますけれども、そういった中でいろんな要望ですとか、そういったものをできるだけ答えるようにしているということで、地域と密着するというので、今現在、山北高校では地域のコーディネーター、あるいは民間企業等、商工そういった方のコーディネーター、それから学校関係等に関わるコーディネーター、そういった方々を中心に今進めているということで、それが1年目より2年目、また来年・再来年という形で、かなりそういった面では、その組織がだんだんボリュームが多くなってきているという状況です。確かに1年目は少なく、開催期間も少なかったり、この町の、山北町のフィードバックも少なかったというふうに思いますけれども、それが徐々に拡大をしていって、来年は3年目ということで研究発表会も予定されているということをお聞きしておりますので、そういった面では、いろんな面での支援をしていきたいというふうに考えてございます。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 だんだん、すばらしい組織になっているというお話を聞いて、今後、さらに期待ができるなと思うんですけれども、コロナの関係で、なかなかその交流ができなかったという部分もあるんだと思いますけれども、高校側としては、何か多少山北、行政のほうの温度差があるなというようなことを感じておられるようですので、これからも、これをさらに発展させて、まちづくり

に生かせるような組織にしていきたいなと思いますけれども、先ほどのこの新聞の東海大の例では、大学とコラボして大きな成果を上げて、また、ほかの事例でもいろいろな成果が載っております。

また、北海道の浦幌町では、まちづくりのエキスパートであるこの行政と知能の大学と、そして商売のプロのビジネスマンとがコラボして、すごく安い、安価だった木材をそれに手を加えることによって、非常に高値で売れるような、そして都会で高値に売れるような、地域で稼げるようなシステムを作り上げたというような事例も聞きます。ぜひ、この今あるこの組織を育て上げるとともに、いろいろな事例を研究して、町に生かせるようなすばらしい組織にしていきたいと思いますが、いかがでしょうか。

議 長 教育長。

教 育 長 山北高校もいろんな全国的に視察に行っていて、校長先生はじめ、職員がこの地域の協働のそういった文科省を受けた、そういったところに視察に行っていて、それぞれのすばらしい取組等を聞いて、そして報告のほうを受けてございます。

ただ、いろんな条件というか、地域性もあったり、かなりやっぱり小さな島国の中で高校があって、そこをどうやって存続させて、活発化させていこうとか、あるいは山の本当の中で、行くまでに1時間、2時間かかるようなそういった地域もあったり、高校生も宿舎で生活しながら高校生活を送るというようなところもあったり、それぞれいろんな地域性もあるんで。ですから、それと同じようには、山北町はできないというふうに思っています。

ですから、神奈川県にある、この山北高等学校の県で唯一指定を受けましたので、恐らく東京・埼玉この辺の関東近隣の中では、大変珍しい指定を受けた学校じゃないかなというふうに思っておりますので、そういった面では、それだけのやりがいのある、この成果がどう波及していくかというのは、非常に注目される場所じゃないかなというふうに思っていますので、いろんな山北町ならではのそういったできることをしっかりと取り組んでいくことが大事かというふうに思っております。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 この全国で20校中の山高が1校だと聞いておりますので、ぜひ、これは成

功していただきたいと思えますけれども、今これから挙げる事例は、学のほうは入っておりませんが、当町でも足柄茶がドイツに渡りましたね。これは、共和の地区の皆さんが川崎や横浜等、いろいろな方と交流をするうちに人と人がつながって、ひよんなことから、それがドイツに行くような、につながったということで、これは、民間が共和の地区の皆さん頑張って、民間がやって主導して始めたことではございますけれども、山北町高齢化率が高いですから民間が動くのを待っていたのでは、これは、なかなか、もちが明きませんので、ぜひ官である行政がコーディネーター、火つけ役となって民間を後押しするような役目をぜひ担っていただかないと、当町では、なかなかその産官学、あるいは金まで交えたような組織というのは、なかなか動き出すことは難しいと思うんですけれども、まず、いろんなところで研究成果が上がっておりますので、すぐ始めろと言っても無理かと思えますので、まず研究から始めていただきたいと思うんですけれど、町長いかがでしょうか。

議
町

長 町長。

長 おっしゃるように、例えば足柄茶のミュンヘンというのも、非常にたまたまそういう人とお知り合いになれて、そして、その中で生まれた話でございますので、非常によかったなというふうに思っております。

また一方では、非常に山北町、特に川崎市さんなんかは、非常に興味を持っていただいて、非常に友好的に様々な企業の代表者の方とも名刺交換したり、いろいろお話をさせていただきました。

その中で、やはりおっしゃるように、山北町で先方の企業の方に山北町でやってくれないと言うと、駄目ですねと、もう簡単に言います。つまり、川崎でやっているビジネスモデルを山北に持ってきても合わないというふうに、もう即断に言われてしまいますので、まあ、山北町は山北町のビジネスモデルを考えていかないと難しいだろうというふうに思っています。

ですから、そういったような中では、様々な人にお知恵をいただきながら、山北らしいビジネスモデルをつくっていかねばいけないなど。ほとんど、例えば住宅関係についても、小田急さんに、毎年御殿場線のあれで、神奈川県は輸送力ですけれども、その中で、やはり開成町とかはやっていますので、山北町もと言うと、いや、あれに入ってませんと。うちの計画には、

山北町は入ってませんというような。あるいは、大和ハウスもそうでした。残念ながら、そちらには入っていませんということで。やはり企業としてはやはり利益を追求しなきゃいけないということで、そういった意味では、やはり同じ仕事をするのであれば、可能性の高いところから始めるというのが、企業の鉄則だというふうに思いますので、新しいビジネスモデルを企業の方と一緒にやってつくっていただければいいんじゃないかというふうに思っておりますので、そういったこともやらないような、そのようなことを考えていきたいというふうに思っております。

議 長

石田照子議員。

13 番 石 田

いろいろな企業に当たって、お断りされているという悲しいお話を伺いましたけれども、民間がそうやって山北町にアパートを造ってくれないから、町営住宅を充実させるんだという基本は、考え方は一緒だと思うんです。そのような企業が積極的にアクションを起こしてくれないので、行政が主導になって、民間のアイデアを掘り起こす、そのような活動をぜひしていただいて、山北町に新風を吹き込み、ほかでやってないアイデアと町長おっしゃられましたけれども、そのようなアイデアで、ぜひ町の活性化を図っていただきたいと思います。

それでは、次に移ります。

3点目の「国とのパイプ役になれる人材を登用したらどうか。」ということでございますけれども、県が先日このような都市マスタープランの概要版を発行して、意見募集を行いました。これを見ていると、山北町のところは、山並みエリアということで、自然的環境保全ゾーン的位置づけでして、道路網の整備から全く外れているんですね。そこに住んでいる人のその不便・不自由というのは、全く考慮されていないんだなと大変悲しくなりましたけれども、自治体が叫んでも全く中央には声が届いていないんだなということを痛感いたしました。

そこで、町長がトップセールスされているとは思いますが、そのように声が届かないのであるならば、トップセールスプラス国や県に顔が利く、声が届くような人材の登用が必要なんだなと感じましたけれども、町長、いかがでしょう。

議
町

長 町長。

長 答弁でもさせていただきましたけども、やはり限られた財政の中で、必要なものということで、今年、防災官のほうを採用させていただきましたけども、そういった意味では、やはり町の政策、そしてまた将来性、あるいは、また財政も当然考えられますけれども、そういった中で、やはり必要な人材を来ていただくというようなことは、大事なことだというふうに思っております。どれが一番大事かというようなところの中で、今現在、一丁目1番地がコロナになってしまっておりますので、まず、これが終息しないと、なかなか出すのが難しいんですけども、それにしても、やはり山北町、観光立町、そして、また少子化で非常に大変なことになっておりますので、そういった意味では、国に対しても山北町の特性とすれば、やはり今は森林が多いというようなことで、こういったようなことも生かしながら、どういうようなことができるか。

また、石田議員がおっしゃったように道路網というようなことについてですけれども、これについては、非常に山北町、特にほかから見ると、神奈川県だけを見ても、なるほど山北町が外れているなというような印象がございますけど、全国的に見ると、高速道路がこんなに通っている町はないんですね。非常に防災面から見て、四国とか、あの辺の首長さんと話すと、何とか、うちのほうにも高速道路を入れてほしい。そして、またスマートインターになりましたけども、インターチェンジ等も入れてほしいというようなことは、非常に切望されております。そういった意味では、山北町、今までインターがなかったんですけど、今度スマートインターができる。そして、それにつながるような道路網も、当然整備していかなくちゃいけない。ですから、そういった意味では、その辺がやはり重要なテーマになってくるんじゃないかなというふうに思っておりますので、そういったことを含めながら道路整備、インフラ整備についても国や県に要望してまいりたいというふうに思っております。

議

長 石田照子議員。

13 番 石

田 当町は東名がたくさん走ってて羨ましいというようなお話でしたけれども、今回スマートインターチェンジができることになりましたけれども、東名は

通過地点で山北町にとっては大気汚染をばらまかれるだけで、そんなに利益はないのかなと思うんですけれども、その道路網についても北へ抜ける道がありませんので、ぜひ町長には頑張ってくださいと思いますけれども。

御回答の中でも防災官の話が出ておりますが、この防災官が決まって、山北町の防災・減災については、大いにこれから頑張ってくださいけるものと期待をいたしますけれども、国にもこのように自治体に人面的に支援する組織があるんです、支援があるんです。地方創生人材支援制度があります。これは国家公務員、大学研究者、民間専門人材等の派遣をしていただけます。近隣では、熱海市が高齢者福祉に関する事業に専門家が派遣されました。このような制度を御存じかと思うんですけれども、回答の中でも自治体の課題が解決につながるなど様々な観点から判断するという御回答いただいておりますけれども、このような制度について検討されたことがあるのかどうか、お聞きいたします。

議 長
町 長

町長。

隣の小山町さんで、特に森林関係で国から来ていただいて、そして何年間かすばらしい成果を出しましたけど、今現在は、国のほうに帰ってしまっているというようなことでございます。やはりそういった意味では、非常にその緊急を要するような治山対策とか、特に台風で非常な目に逢いましたから、そういったようなところについては、当然有効だったというふうに思っておりますし、町についてもそういった意味では、本当に山北町について一番大事な政策が何なのか、そしてそれが可能なのかどうか、例えば国の政策と県の政策が違うというような場合もございますので、そういった意味では、ちょっと我々としては、手の出しにくいところではございますけれども、そういった意味では、町と県と国が連携していけるような、そういった事業については、そういう可能性を含めながら検討してまいりたいというふうに思っております。

議 長
13 番 石 田

石田照子議員。

あらゆる支援を、制度を利用していただきたいと思いますが、この制度の派遣者は国家公務員だけを見ても、国土交通省、内閣府、農林水産省、総務省、防衛省、経済産業省、金融庁、財務省、外務省など多彩な方々で地

域の課題によって派遣されるようなんです。飛騨市では、ふるさと納税の制度的な面のサポートを受けて、平成29年にはふるさと納税の額が3億5,000万だったのが、2年後の令和元年には10億9,000万。2年で僅か3倍になりました。この人材派遣でいろいろな知恵をお伺いしたんでしょうね。そして、企業版ふるさと納税についても、16社から1億5,000万を集めることができたそうです。

また、茨城県境町では、公道の自動運転バスの実用化が実現したそうです。当町には、ぜひこれ必要な欲しい制度だなと思いますけれども、また、新潟県の聖籠町では、コミュニティバスを民間バス業者と調整統合して、民間バスの路線をコミュニティバスが走って、隣の市まで走っているそうです。このような小さな自治体でも、専門家の知恵を借りることによって、いろいろな対応ができる。ほんの一例だと思うんですけども、ぜひ町長、小さな山北町でございますが、研究する余地はあると思うんですけども、いかがでしょう。

議
町

長 町長。

長 山北町にとって、特にその財政的なところから言うと、ふるさと納税というのが、今もう山北町にとっては、かなりのウエートを占めております。去年ですと、大体6億ぐらいですか。というようなことで、今年も4億から5億は行くんじゃないかというふうには思っておりますけど、それが増えていくことは、当然やらなければいけないんですけども、当然、その中での課題というのが、どんどん出てきます。

例えば、山北町、今おせちとかローストビーフというのがありますが、これについては、どうしても冷凍の配送というようなコストの問題があったり、あるいは、またそういったようなことで新しいふるさと納税を考えるについて、様々な提案を実際にそういう何ていうんですか、国などの方でなくても、現在のふるさと納税でトップ幾つかに入っているようなところは、ほとんど知り合いが非常に多いと。三宅町さんにしても、小山町さんにしても、堺町にしても、どこでもそうですけども、皆さん、非常に研究熱心で、そして、我々にもそういうオファーが何度か来ております。それをやる、やらないは、町の考え方にもよりますけども、やはり、それは企業ですから、ハー

ドルがかなり高いということです。それを受け入れるか、受け入れないか、そういったようなことも含めながら山北町にとって一番いい人材、そういったような登用については、慎重に検討してまいりたいというふうに思っております。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 この人材の登用というのは、ハードルがそんなに高くないと思うんですけども、これからの地方創生、あるいは当町も起死回生には、やはりアイデア、あるいはそのような優秀な人材というのは、非常に鍵になるのかなと思います。

そこで、当町は90%が山林で、それゆえに、そこに住んでいる方々は不便を強いられております。

また、それが原因で人口減少にも歯止めがかからない状況ですので、ぜひ林野庁や、あるいは国土交通省などから人材を派遣していただいたらどうなのか。応募するだけだと思うんですけども、いかがでしょうか。

議 長 町長。

町 長 現実に、今、例えば林野庁については、国有林の関係で、年に1回会議をさせていただいて、現実に、そのキャリアの方ともお話させて、いろいろなところでやらせていただいています。そういう中で、素晴らしい人材もおりますけども、山北町にとっては、ちょっと無理かなというような人もいらっしゃる。そういった意味では、林野庁については、やはり山北の現状とその解決方法について、そういう方がいらっしゃれば、そういうふうなオファーをかけていきたいというふうにも思いますし、それから国土交通省については、今、私のほうが会長をさせていただいておりますPFIの全国組織の事例発表の中でも、バックには、当然、国土交通省さんがかなり応援していただいておりますので、そういったような方、あるいは日銀の方、そういったような方が非常にたくさんおられます。

ですから、そういったような方の中で、そういった可能性があるというふうなことについては、ぜひ、やっていかなければいけないというふうに思いますけれども、現実に、私と話をして、国土交通省の方とお話しすると、規模的にちょっと大き過ぎる。簡単に40億、50億言いますから、それだけの事

業を山北町、一般会計の年間と同じぐらいのことをさらっと言いますから、それだけの事業を起こせるかどうか、皆さんに提案できるかどうか、そういったようなことも含めながら、やはり非常に町の全体に関わるような、そういったようなことになると思いますんで、彼らからすると、そのぐらいの事業は最低やりたいということですから、少なくとも1億・2億の事業をやりたいということに来る方はいらっしゃらないと思いますんで、最低でも四、五十億は最低事業としてやらなきゃいけないというふうに考えておりますんで、そういった事業があれば、そういったことも検討したいというふうに思っております。

議 長 副町長。

副 町 長 今、手挙げるだけというふうに石田議員のほうでおっしゃったんですが、手を挙げるということは、派遣してもらおうということは、その国の職員の人件費から、住むところから、待遇から全部町が見なきゃいけない。それで、内容的には、一つの事業をやるとすると、はい、40億出してくださいと。それだと、やはり山北町も難しいんで、山北町に合ったところの、合った考え方のある人をできるだけ採用して、研究していきたいというふうに考えておりますので、その辺については慎重にやっていきたいと。あまり大きいところで、ちょうど中途半端な土地で、国の職員に言わせると、山北町は地方じゃないと言うんです。地方と言うのは、長野とか、四国とか、九州とかいうのが地方であって、山北町は都会だというんですよ。

ところが窓を開けて外を見ると、既に地方です。でも、地方に分厚くするというのと、山北町は、それは当てはまらないと。その辺のギャップのところをちょっと調整しながら、やっていかなきゃいけないということを理解していただきたい。

議 長 石田照子議員。

13 番 石 田 4,000人、5,000人ぐらいの小さな自治体でも、この制度を利用しておりますので、そんなに莫大な費用がかからなくてもできる事業というのはあると思うんです。

そして今先ほど、山北は地方じゃないと言われましたけども、そういう方に山北に住んでいただくことによって、ああ、神奈川県にもこんなに不便な

ところがあるんだと認識していただけるだけでも非常に大切じゃないかなと思うんです。ですから、最初から予算がかかるからと諦めるのではなくて、この小さな自治体だからこそ使える制度は、利用したほうがいいのではないかなと思うんです。本日私がこのような提案をしたのは、財政が厳しい自治体だからこそ、様々な業種、様々な年代の人たち、いろいろな観点がぶつかって化学変化を起こすことで、意外なアイデアが生まれる。過去にも山北商店街の活性化等議論したかなと思うんですけれども、これとって大きな成果が出ませんでしたけれども、発想をがらっと変えることによって、あるいは、そこに若い感性が入ることによって、また違ったアイデアが出てくるかなと思うんです。そのようなものを期待して、いろいろな可能性を町としても取り入れていただきたいということで、このような提案をしたんですけれども、最後に町長お考えいかがでしょう。

議
町

長
長

町長。
おっしゃる意味はよく分かりますんで、私のほうもそういった意味では、いろいろな様々な人から、様々な提案を受けたいというふうには思っておりますけども、一方では具体的にそういう方がかなりいらっしゃいます。そして、また実際にそういう提案、あるいはそういったようなことも受けております。そういう中でやはり現実的に考えると、非常にその山北町にとって何ていうんですか、例えば一つの例で言いますと、山林がこんなにありますから、その木のところを東京の事業者の方がやりたいと。そのチップをやりたいと。どっか場所ないでしょうかと。全部向こうが投資するわけですけど、そういったような中でも、やはりそれだけの場所と、そして、またその近隣の皆さんにそういうことを理解していただくというのは、ハードルが相当高いなというふうに考えておりますので、そういったような様々な提案がかなり来ます。そういった中で、やはり何ていうんですか、場所の問題、広さが、相当広く欲しいとか、あるいは、またその許認可に関わる問題についても、ただ木材をこうチップやるだけなんですけど、産業廃棄物の資格になってしまいますんで、なかなか皆さんに御理解いただけないんじゃないか。そういった様々な理由で、実際には、そこから先に行かないというようなことがございますので、現実的にその提案していただけることは非常にありがたいし、

我々も真摯にそういったような提案をできればいいなというふうには思いますけど、やはりその今急峻な山を抱えて、そして、その何ていうんですか、実際にその企業ベース、あるいは様々な大学の先生方の見方からすると、その投資する費用と効果については、かなりギャップがあるということで、そういった中では、どれか全てが駄目ということではありませんので、その中で選択させていただきながら進めさせていただけたらありがたいなというふうに思っております。

議 長 これで、石田照子議員の一般質問は、終了させていただきます。
ここで暫時休憩とさせていただきます。再開は、11時といたします。11時
ちょうどです。 (午前10時46分)

議 長 休憩前に引き続き、会議を開きます。 (午前11時00分)
初めに、先ほどの議席番号13番、石田照子議員より一般質問の中で訂正の
発言を求められておりますので、石田照子議員、どうぞ。

13 番 石 田 先ほど、一般質問の中で、皆川さんの御名前を間違えました。皆川和子さ
んに、ぜひ訂正をしていただきたいと思います。
以上です。

議 長 訂正の発言を受けますので、よろしくお願ひしたいと思います。